

# 和

なごみ

## 「涼」

朝がほや 一輪 深き淵の色

蕪村を映像作家と呼んだ人がある

一輪の小さな花の色に、静まり返った深い淵の  
さまざまな藍色が見えるというのだろうか

夏、寝苦しかった夜、その名残の朝

一輪の朝顔

藍の、水を湛えたような涼気

いま、空調完備の快適な時代という

私たちは本当にゆたかになったのだろうか

## せんてい 剪定ばさみ (庭師のワンポイントアドバイス)

### 「 シャラの木 (夏椿) 」

6月～7月に椿のような花をつける落葉高木です。  
自然に樹形が整うので、  
あまり手を入れない方がよいです。  
花芽は5月頃に出来ますから、  
剪定は、葉が落ちた秋か、  
芽吹き前の3月頃が適期です。  
切り口から“ばい菌”が入るおそれがある  
ので、大きな枝などを伐る“強剪定”は、  
なるべく避けます。  
どうしても切る必要がある時は、切り口に  
ペンレートなどの殺菌剤を塗ると良いです。  
和風、洋風、どちらの家にも合う  
樹種の一つです。



## 一建落着



### カフェテラス「和光館」(朝地)

かつての道場が、  
カフェテラス「和光館」  
として再生されました。  
場所は、朝地郵便局の真裏です。  
どうぞ、ご利用下さい。

### Y邸 (竹田)



竹田では珍しい京風の  
“むくり屋根”の家です。  
木の家“温もり”“安らぎ”を  
お施主さんに感じて頂ければ幸いです。

『和』を読んでの  
ご感想を  
お聞かせ下さい。

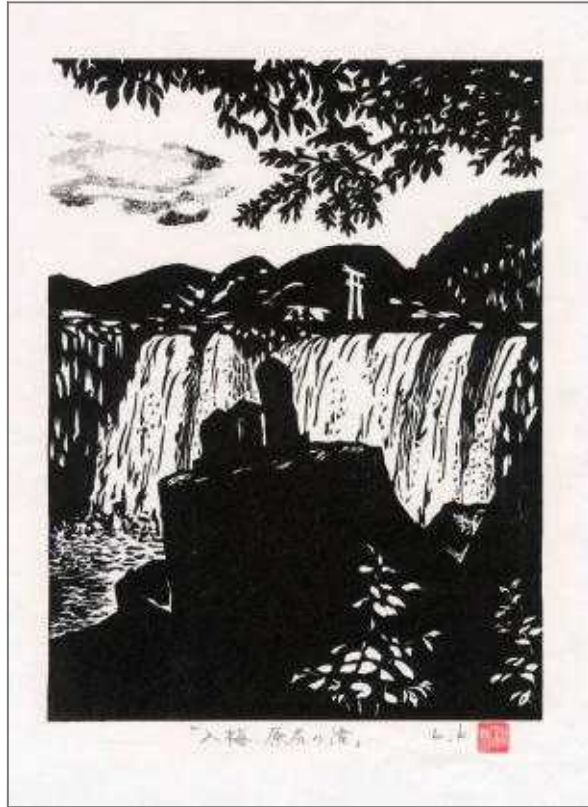
発行人 川野和男  
編集 川野組内  
家造り匠の会  
☎ 竹田62-2416  
メール tkk22@theia.ocn.ne.jp

## 旬の版画

前回に続いて緒方です

三体の“お地蔵様”が、  
水から人を護る様に滝のそばに  
ひっそりと佇んでいました

今はもう、見る事の出来ない  
景色です



## ちょっと季になるお話

今回の和は文月号。  
七夕の夜に書物を夜風にさらして湿気を取る風習があった事から7月をこう呼ぶようになったとか。

7月の行事の代表と言えば、七夕ですが、この日に行われる風習は結構多いのです。現在では殆どやらなくなったものもありますが、その内の一つが、無病息災を願って索餅(さくべい)を食べるというものです。索餅とは、神饌(神様へのお供え物)です。小麦粉と米を練り、塩味をつけて縄のようにねじり、蒸したり、油で揚げたりして作ります。



奈良・平安時代には、そのまま食べたそうですが、鎌倉時代になると現代のように汁などにつけて食べるようになりました。索餅 索麺 素麺となったという説もあり、素麺の原型とも言われています。7月7日は、乾麺の日でもあります。

「作ってみようと思ったのに、七夕なんてもう過ぎてるじゃないの」ですか？大丈夫ですよ。本来、七夕は旧暦ですから、今年は8月11日(木)です。宮人になったつもりで、素麺の代わりに索餅を召し上がってみては・・・たぶん期待はずれの味でしょうけど。

## 里山探訪 やまの恵みたち

カボスの旬はこれからでしょうか。今は未だ摘果の時期。摘んで捨てられる可憐な実が、季節限定で生まれ変わる。



マリモのような、指の先ほどのカボス。

「ヘタ」を取って、色鮮やかに炊き上げる。一晚晒して、翌日また火を入れる。

数日これを繰り返し、薄く砂糖で風味を活かす。料理のあしらい、彩り、冷やしてデザートなど。

「かぼすっ子」



## 休景たいむ 「いっぷく」時間の一枚



これは、竹田田町の『くどう薬局』さんの屋根からの景色です。

この通りも、ちょっと前に土色の舗装が施されました。竹田の景観も少しずつ変わっていきます。

## 知っ得？ 納得！ こんな所に こんな物

『三国志』でお馴染みの関羽の像が竹田にあるのをご存じですか？

場所は、2年前に鐘楼を修復した(和No.6で紹介しました)西光寺の中庭です。

豪放忠義の武将として中国はもとより、歌舞伎18番に取りあげられるほど日本人にも人気がある関羽の焼き物がなぜ？

実は久持候(9代岡藩主)が大ファンで、二体作らせ、一つを家臣の斉田家に下され、それが明治時代に西光寺に寄進されて、今に至っています。



びぜんこう  
美髯候と呼ばれた自慢の髯は、欠け落ちていますが、完成時、殿様は「見事な出来栄え」と大層喜ばれたそうですから、小宛焼(岡藩・藩窯)の元と考えられている関羽の像、一見の価値はあるのでは。

(歴史と文化を考える会の案内板参考)